

## タラノメ（露地普通・ふかし促成）

|       | 1                                                                                                                                                                                                             | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 露地普通  | <div> <div>1年目</div> <div>◎</div> </div> <div> <div>2年目以降</div> <div>□</div> <div>※剪枝</div> </div>                                                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| ふかし促成 | <div> <div>□</div> <div>温床・加温</div> <div>□</div> <div>◎</div> <div>□</div> <div>温床・加温</div> <div>◇</div> <div>◎</div> <div>□</div> <div>無加温</div> </div> <div> <div>□</div> <div>◎</div> <div>挿木</div> </div> |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

タラノメ ウコギ科 原産地：日本

作物名 タラノメ

学 名 *Aralia elata*.

作 型 露地普通・ふかし促成

### 技術体系

#### 性状

昭和 48 年以降、山梨県で、棘の少ない優良系統の選抜がなされ、全国的に普及した。

ウコギ科の落葉低木で幹は直立し、葉は互生するため四方に傘のように開く。

新芽を収穫するため、植え付けした翌春から収穫でき、2～3年で成園となる。

#### 1 作型の特徴

露地普通栽培は、2年目から頂芽～側芽を約一ヶ月にわたって収穫する一般的な作型である。また、ふかし促成栽培に必要な穂木を生産する目的もある。

ふかし促成栽培は、初冬から露地ものがとれ始めるまでの期間、おがくず床のような温床の中で、露地普通栽培からとった穂木を挿し、約一ヶ月で萌芽してくる若芽を収穫する作型で、加温も行われている。

#### 2 適応地域

中山間地域

#### 3 栽培条件

圃場の条件は、日光がよく当たり、耕土が深く、排水のよい場所を選ぶが、遊休耕地、未利用地の活用もできる。

水田転換作物として導入する場合、地下水が高かったり、停滞水の予想されるような場所は避ける。

#### 4 施設装備

ふかし促成栽培において、温床が必要な時期がある。

#### 5 経営目標

(1) 収量 露地普通栽培 180kg/10a

ふかし促成栽培 1.5kg/m<sup>2</sup>

(家族労働力2人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

とげが少なく、濃緑で多収系のものを選抜品種化している。

「駒みどり」

とげが極めて少なく、生育旺盛で、剪枝後伸長する枝も太く、発生本数も多く、よく揃う。

「新駒」

「駒みどり」の突然変異種で側芽の肥大が特に早く、極めて多収であるが、揃いが悪いので、露地普通栽培には向かない。ふかし促成栽培での穂木に用

いると、休眠がほとんどみられないため、芽の発生が早くよく揃う。

## 2 種苗・種根

タラノキは根から発芽しやすいことから、根を短く切って種苗とする。切った根を種根としてそのまま植え付ける方法と苗として養成してから植え付ける方法とがある。

### (1) 種根養成

株増延の能率化のため、親株からとった種根を、育苗を省略して直接本圃に定植する。本圃 10a 当たり種根 1,000 本が必要であり、そのための親株は 40 ～ 50 株程度必要である。冬期、落葉した親株をていねいに掘り上げ、直径 5 mm 以上のものを長さ 15cm 程度に切り、種根を準備する。

### (2) 苗木養成

養成畑は、無病地で肥料分が少なく、排水がよいところを選び、畦幅 60cm、株間 20cm、条間 20cm の 2 条とする。用意していた種根を、斜めまたは横挿しし、5 ～ 6 cm の厚さに覆土する。植え付け適期は、タラノメが萌芽する直前の 2 月下旬～3 月中旬である。

## 3 本圃植え付け

種根を直接、または養成した苗木を、畦幅 2 m、株間 50cm 以上、10a 当たり 1,000 本以下となるように植える。

苗木の植え付けは、12 月～3 月の間に行うが、適期は種根の植え付け同様、萌芽直前の頃である。

## 4 施肥

堆肥等を多用し、窒素分は極力ひかえる。N、 $P_2O_5$ 、 $K_2O$  各成分 10 ～ 15kg/10a である。

剪枝が終わった 5 月中旬頃に基肥として全体の 7 割を施用し、残りは萌芽前の 3 月上旬に施用する。

## 5 除草

種根は植え付け後 40 ～ 60 日で発芽するので、その間はまめに除草することが必要である。特に、生育初期日陰になると枯死するので、除草、草刈りは

十分に行い、株の周囲には敷き草、敷きワラをする。

## 6 仕立て方

整枝は、収穫終了後すぐに、なるべく低い位置で行う。2 年目以降は、その年に新しく伸びた枝の 1 芽を残して剪定する。

## 7 ふかし促成栽培

山採りまたは露地普通栽培から得た穂木を 1 芽つけて 10cm 程度に切り、おがくず、またはロックウール粒状綿、粉碎モミガラ等を詰めた床にぎっしり垂直に伏せ込み、十分に灌水する。

おがくず等が乾かないように 2 ～ 3 日おきに灌水し、湿度を 85 % 以上確保するため、日中もできるだけトンネルの換気を避ける。このとき、最高温度が 30℃ 近くになると穂木が腐敗しやすくなるので、昼間は遮光資材を活用し、20℃ を越えないようにする。夜温は 8 ～ 10℃、床温は 15℃ 以下で管理する。

萌芽したら、緑化のために 2 ～ 3 日程度日に当てる。

## 8 収穫

新芽が展葉する前、長さ 10cm 前後に伸びたとき、鋭利な刃物で根元から切り取る。

高温条件下では急速に品質が低下するので、低温流通を行う。